

学習指導案の作成の留意事項

【参考文献】「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校編)
(令和3年8月)<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

各教科に共通する基本的な項目について例示します。教科により項目の数・内容は増減します。

- | | |
|-------------------|---|
| 1 単元名(題材名) | ○単元名(題材名)は、指導「事項」や言語活動を踏まえ、短文で表現する。 |
| 2 単元(題材)の目標 | ○単元(題材)全体の目標は、育成する資質・能力の3つの柱に沿って設定する。
○学習指導要領の「内容」の指導「事項」に基づいて、指導と評価が行われていることを明確に示すため、目標を重点化する。年間指導計画等を確認し、原則として、学習指導要領の指導「事項」の文言を基に表記する。
○〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕についての目標の文末は「～ができる」等が考えられる。
○「学びに向かう力、人間性等」についての目標は、当該教科の目標や当該科目の目標(3)を参考に設定する。文末は「～しようとする」等が考えられる。
◆高等学校学習指導要領・総則には、「学校においては、第2章以下に示していない事項を加えて指導することができる」こと、また、「学校においては、特に必要がある場合には、第2章及び第3章に示す教科及び科目の目標の趣旨を損なわない範囲内で、各教科・科目の内容に関する事項について、基礎的・基本的な事項に重点を置くなどその内容を適切に選択して指導することができる」ことが示されている。 |
| 3 単元観(題材観) | ○学習指導要領上の位置付け、単元(題材)そのものの価値や学ぶことの意義、身に付けさせたい力等を述べる。
○授業設計の意図や提案について、学習課題が明確になるよう具体的に述べる。
○単元(題材)で取り上げる言語活動について述べる。
○既習事項との関連や年間指導計画における位置付けについて述べる。 |
| 4 生徒の実態 | ○対象学級の生徒の構成や全体的な傾向について述べる。
○単元(題材)の学習内容について、学習集団としての形成状態や到達度などについて述べる。事前調査などがあれば合わせて記載する。
○特に配慮や支援を要する生徒がいれば、その生徒の状況について述べる。 |
| 5 指導観 | ○「4 生徒の実態」で述べた生徒の実態を踏まえ、「3 単元観(題材観)」で述べた学習を展開するために、どのように指導方法を工夫するのかを述べる。
○学習形態、資料・ワークシート、評価方法等、単元(題材)構想の工夫を具体的に述べる。
○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立って、単元(題材)全体についての重点項目や注意点、工夫点を場面や手立てを明らかにして述べる。 |
| 6 単元(題材)の指導と評価の計画 | ○「2 単元(題材)の目標」の設定を受け、評価の観点ごとに目標に対応する単元(題材)の評価規準を設定する。つまり、「2 単元(題材)の目標」と「(1)単元(題材)の評価規準」は、ほぼ同じとなる。 |
| (1)単元(題材)の評価規準 | ○「知識・技能」「思考・判断・表現」の文末は、「～している」等、生徒の状態を示す。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。
○「主体的に学習に取り組む態度」の文末は、「～しようとしている」等。 |

- ①知識及び技能を獲得したり, 思考力, 判断力, 表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
 - ②①の粘り強い取組を行う中で, 自らの学習を調整しようとする側面
- 上記2つの側面から評価することが求められている。当該単元(題材)において, 他の2観点において重点とする内容(特に, 粘り強さを発揮してほしい内容)と, 自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて, 単元(題材)を構想し, 評価規準を設定する。なお, 言語活動自体を評価するものではないことに留意する必要がある。
- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』にある「各教科における「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順」や「単元(題材)ごとの学習評価について(事例)」等を参考にして設定する。
 - 学習への見通しを持たせるため, 単元(題材)の初めに生徒に示すことを前提に設定する。
 - ◆ 高等学校では, 「学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき, 学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らしてその実現状況を評価する」ことができるので, 各学校ではこの点も十分に踏まえ, 関係資料を参考にしつつ, 適切な評価規準を設定する。

(2)指導と評価の計画

- 目標に迫るための学習活動のまとめりである単元(題材)の全体像を簡易に示し, どの時間に何を評価するのかを整理して述べる。
- 「学習活動」は, 生徒を主語として述べる。時間毎の学習についての見通しを明示し, 振り返りを可能にする。
- 「指導上の留意点」「評価規準・評価方法等」は, 指導者を主語として述べる。
- 「記録に残す評価」について記載する。
- 単元(題材)全体の中にそれぞれの教科が求めている「評価の観点」が見えるように計画する。
- 「評価規準・評価方法等」では, 単元(題材)の評価規準を具体化し, 実際の授業で用いることができるものとする。
- 「評価規準」について, 評価する場面と評価方法, 及びBと判断する状況について示す。
- 評価規準の設定は, 1単位時間では1項目程度が妥当である。
- 評価は1時間のみで行うものだけでなく, 数時間にまたがる評価もあり得る。
- 「思考・判断・表現」を評価するところでは, 必ず言語活動を学習活動に入れる。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は, その単元(題材)での学習を通して育成すべき資質・能力であるので, 単元(題材)の最終段階で行うことが多くなる。
- 行動(授業中の発言や行動, 様子)を見取ったり, (ノートやワークシート等への)記述を読んだりして評価する。
 - ①観察, 点検:「～しているかどうか」(行動の観察, 記述の点検)
 - ②確認:「規準を満たしているか」(行動の確認, 記述の確認)
 - ③分析:①・②を踏まえて, 実現状況の高まりを評価する。(行動の分析, 記述の分析)

7 本時の計画

- 研究授業や模擬授業として公開する授業における指導と評価の構想・計画, 工夫・留意事項を具体的に示す。

(1)本時の目標

- 本時の指導目標を端的に示す。この時間でどのような資質・能力を身に付けさせるのかを記述する。その際, 単元(題材)の目標との関連を明確にし, 「6 単元(題材)の指導と評価の計画」を参照して, 該当する時間との整合性に留意し, 当該時間の学習活動と目標について, 生徒を主語として記載する。なお, 複数項目ある場合には, 箇条書きとする。
- 語尾は「～する」「～できる」等, 具体的な記述をする。
- 目標がどの評価の観点に基づくものか明記する。

(2)指導に当たって	○「5 指導観」を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立って、授業の展開、発問、学習形態、教材・補助資料・ワークシート、ICT、板書、学習評価等、本時の目標を達成するために必要な学習指導上の工夫について、意図や期待する効果を含めて述べる。
(3)指導過程	○本時の目標を達成するための授業展開計画を示す。その際、生徒の学習活動と指導の手立てがイメージできるよう具体的に記載する。
・段階	○教科の特性に応じて、単位時間を、「導入」「展開」「結末」などに区切り、それぞれに当てる時間を示す。 ○「結末」は、本時の学習過程を振り返り、どのような力を身に付けたか、どのようなことに生かしていけるかを生徒に気付かせる段階と位置付ける。
・学習活動	○生徒を主語にして、生徒の学習活動を示す。学習活動に番号を付ける。 (例)「2 本文を全員で音読する」「5 比喩の効果をグループで話し合う」 ○「課題提示」「発問」など具体的に書く。枠囲みし、発問等は指導者が発するままの言葉で書く。 ○指示や発問に対する生徒の反応・解答を書く。「5 指導観」に基づいて、何ができて何ができていないかを判断し、予想される生徒の反応等を書く。
・学習形態	○一斉、個別、ペア、グループ等の別を記述する。「主体的・対話的で深い学び」につながるよう、多様な学習形態を取り入れる。
・指導上の留意点	○指導者を主語にして、指導・支援の内容、生徒の学習を促進させる手立てについて書く。「(生徒に)……させる。」「(教師が)……する。」 ○学習活動と指導者の支援の関わりを対応させて書く。 ○評価規準に照らして、C「努力を要する」状況と判断される生徒への手立てを記述する。
・評価規準(評価方法)	○「6(2) 指導と評価の計画」の該当時間の「評価規準・評価方法等」から転記する。 ○導入では評価はできない。 ○語尾は「～している」を基本とする。 ○「指導に生かす評価」を盛り込む際は、★を付すなどして「記録に残す評価」と区別する。
(4)本時の評価	○「具体的評価規準」は「おおむね満足できる(B)」と判断される状況について、本時の目標が達成された生徒の姿を思い浮かべ、到達の度合いを具体的に設定する。その際、単元(題材)の評価規準との整合性に留意する。 ○「十分満足できる(A)」と判断される状況については、評価規準に照らして学習の実現状況の程度から、その高まりや深まりを持っていると判断される状況を想定して記述する。 ○「努力を要する(C)」と判断される状況については、指導者がその時間内にどのような手立てを講じるのかを具体的に記述する。
(5)準備物	○指導者が準備する教材・教具(ワークシートや補助資料、ICT機器、卓上ホワイトボード等)と生徒が使用する教材を分けて書く。
(6)板書計画	○実際に板書する内容や、プロジェクタで投影する内容を書く。
(7)学習プリント・ワークシート	○授業で使用するワークシートや補助資料などを添付する。学習指導案の本体には、「別添」と書く。

